



尾上三車竹  
歌川國貞画  
前編

2378  
381





書目録

自序

今年一葉の花ありて又も一葉の春を告ぐは日  
 比の月年暇たしと由流るる子乃編冊を圖して  
 天運循環し子孫繁貴するの一回と徒我の余  
 信よりおかしき事なきに接せしむるは亦も板を  
 河原子紙を文海亭におかしき世におかしき事なき  
 あらまひ麻糍の月とこの海をりゆるといふは  
 何れもこれ年中恒時のおかしき事なき而已

2378  
 381

尾上之助



尾



音助  
村  
山一長の家  
し  
し

尾上栄三郎

振元河津

國貞

貞依  
貞  
貞



尾上松助

僅古教光が  
者に言われ  
錦旗の如き  
日令之の言中  
に預て漁作  
應たよま方側と  
扱つたよまの  
後敵と斗



君恩の廣大なるを  
小姓にがアア同のよる  
流きこも從之世二世の  
世と元をひ夫の根の

小姓に氏のをか  
切より存たそ  
お孫氏に言れ  
二親の家  
まうし  
父ハ  
岩淵が  
後  
自製の  
仇と討ん  
初年と  
こもに父の仇と  
小姓の仇と再自









びんのおまわりこれ今日  
 かなれをうしぬ金も多  
 おりかきとこれき  
 だてあなりの竹垣  
 かにたまたまのあま  
 さのさむくはれは  
 了るさむくはれは  
 かりとつ日なを  
 三つをわけて  
 おのろをのり  
 この若菜を  
 びんとおのり  
 月よりおのり  
 かんすとすくは  
 くのり  
 かくてあま  
 ぶつをう  
 ありさむく  
 うのり  
 うのり  
 びんのおまわり  
 あがりぬ  
 さむくはれ  
 かりとつ日  
 のり  
 びんとおのり  
 月よりおのり  
 かんすとすくは  
 くのり



びんのおまわり  
 かなれをうしぬ  
 おりかきとこれ  
 だてあなりの竹  
 かにたまたまの  
 さのさむくはれ  
 了るさむくはれ  
 かりとつ日なを  
 三つをわけて  
 おのろをのり  
 この若菜を  
 びんとおのり  
 月よりおのり  
 かんすとすくは  
 くのり

びんのおまわり  
 かなれをうしぬ  
 おりかきとこれ  
 だてあなりの竹  
 かにたまたまの  
 さのさむくはれ  
 了るさむくはれ  
 かりとつ日なを  
 三つをわけて  
 おのろをのり  
 この若菜を  
 びんとおのり  
 月よりおのり  
 かんすとすくは  
 くのり



びんのおまわり  
 かなれをうしぬ  
 おりかきとこれ  
 だてあなりの竹  
 かにたまたまの  
 さのさむくはれ  
 了るさむくはれ  
 かりとつ日なを  
 三つをわけて  
 おのろをのり  
 この若菜を  
 びんとおのり  
 月よりおのり  
 かんすとすくは  
 くのり



又の世せらるる... 此の世に... 人の世は... 草の如し...



あまの... 草の... 世の...

あまの... 草の... 世の...



あまの... 草の... 世の... 人の世は... 草の如し... 此の世に... 又の世せらるる...

昔れをわすれしひんあそびのそら日めりたそなりのあづりさかすのまのあひさまでききかたききつるあつらひにきき  
 けしあまのまらけりてあそびのひひりたそなりのあづりさかすのまのあひさまでききかたききつるあつらひにきき  
 昔れをわすれしひんあそびのそら日めりたそなりのあづりさかすのまのあひさまでききかたききつるあつらひにきき  
 ...  
 あつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつる  
 ...  
 あつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつる

あつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつる  
 あつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつる  
 ...  
 あつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつる



あつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつるあつらひにききかたききつる



あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた

あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた

あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた

あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた  
あまの  
かみ  
ひたひた



あまの  
かみ  
ひたひた





三十四  
 此の図は、江戸の浮世草子に於ては、最も有名な浮世草子の一つである。この草子は、浮世草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。

此の草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。



三十四  
 此の図は、江戸の浮世草子に於ては、最も有名な浮世草子の一つである。この草子は、浮世草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。

此の草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。この草子の名譽を最も高くしたものである。



二のりて  
 水小  
 母  
 こ物

本町の...  
 まけ...  
 つら...  
 十...  
 大...  
 ち...

本町の...  
 まけ...  
 つら...  
 十...  
 大...  
 ち...



本町の...  
 まけ...  
 つら...  
 十...  
 大...  
 ち...

三事

十二



十四

十四

尾上三朝作



うこ尖く蛇の

カク那

三朝

この龍の  
カク那  
三朝  
徳瓶書筆

口五張書作者自筆

徳瓶書筆

歌川國貞畫



可人ニ世如  
おれもは白琴の  
や人ニ世如  
おれもは白琴の  
おれもは白琴の  
おれもは白琴の  
おれもは白琴の













Handwritten text in a cursive script, likely a historical or administrative document. The text is densely packed and covers most of the page area.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is densely packed and covers most of the page area.











Handwritten text in a cursive script, likely a medical or scientific treatise, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text at the top of the left page, preceding the illustration.



Handwritten text at the bottom of the left page, following the illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho) and appears to be a narrative or commentary related to the scene depicted.



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho) and appears to be a narrative or commentary related to the scene depicted.







此のついでにりがてつてはつちりヤクとあされをそぎ  
 せしめしむるもさしきりしつとそとのまきあはれをいふ  
 せんそよみけいふさきあへりつとさきつとさきつ  
 せしめしむるもさしきりしつとそとのまきあはれをいふ  
 せんそよみけいふさきあへりつとさきつとさきつ

美東の田舎の... 小園... 村...  
 月日 柳...

五つ... 八つ... 九つ...  
 十つ... 十一つ... 十二つ...



此のついでにりがてつてはつちりヤクとあされをそぎ  
 せしめしむるもさしきりしつとそとのまきあはれをいふ  
 せんそよみけいふさきあへりつとさきつとさきつ

五つ... 八つ... 九つ...  
 十つ... 十一つ... 十二つ...

伊達道具鳥羽累  
 復報四ッ屋話  
 乘合船浪花比噺  
 不<sup>解</sup>庚申  
 扇々爰書祓  
 千鳥曾我昔繪  
 大磯之丹前姿  
 蝶<sup>化</sup>粧坂<sup>杖</sup>編笠<sup>笠</sup>



尾上三朝著作

五渡亭國貞畫

同名  
 伊達道具鳥羽累  
 復報四ッ屋話  
 乘合船浪花比噺  
 不<sup>解</sup>庚申  
 扇々爰書祓  
 千鳥曾我昔繪  
 大磯之丹前姿  
 蝶<sup>化</sup>粧坂<sup>杖</sup>編笠<sup>笠</sup>

甲戌春新板繪草紙

宋傳 金命丸 一冊 二年	伊達道具鳥羽累 六冊 市川團十郎作	復報四ッ屋話 六冊 尾上三朝貞画	乘合船浪花比噺 三冊 當山傳孝画	四季花黄金鉢植 三冊 東西庵南正画	不 <sup>解</sup> 庚申 六冊 市川團十郎画	扇々爰書祓 六冊 尾上三朝貞画	千鳥曾我昔繪 六冊 山東京傳画	大磯之丹前姿 蝶 <sup>化</sup> 粧坂 <sup>杖</sup> 編笠 <sup>笠</sup> 六冊 山東京傳画
-----------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------------------------------------------------------



